

【初年次教育センター】令和7年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告（*は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ ※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：実施なし

- ・科目
- ・担当教員
- ・実施日時/場所
- ・*参加人数 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

②ワークショップ：

- 1、「自己発見と大学生活」第1回担当者会議①：3月18日（火）10：00～12：00（12402 教室）
 - ・参加者 14 名
 - ・担当教員に「自己発見と大学生活」とは？、運営体制及びスタッフ紹介、F 工房からの連絡・情報共有、事務局からの連絡（教室、業務委託及び Teams の利用等）、第1回～第5回・オンデマンド授業のコンテンツ解説、第6回～第11回（第二部）の変更点についての研修を行い、最後に意見交換を行った。
- 2、「自己発見と大学生活」第1回担当者会議②：4月2日（水）10：00～12：00（12402 教室）
 - ・参加者 16 名
 - ・担当教員に「自己発見と大学生活」とは？、運営体制及びスタッフ紹介、F 工房からの連絡・情報共有、事務局からの連絡（教室、業務委託及び Teams の利用等）、第1回～第5回・オンデマンド授業のコンテンツ解説、第6回～第11回（第二部）の変更点についての研修を行い、最後に意見交換を行った。
- 3、「自己発見と大学生活」新任担当教員対象研修会：4月2日（火）12：00～13：00（12402 教室）
 - ・参加者 4 名
 - ・本科目を初めて担当する新任教員に統括・副統括メンバーで研修会を行った。
- 4、「自己発見と大学生活」第2担当者会議：7月2日（水）12：30～13：00（オンライン）
 - ・参加人数 15 名
 - ・統括教員から成績評価、第13回・第14回の授業について、事務から学習成果実感調査について、F 工房から次期学生ファシリテーター募集・効果調査・学ファシふりかえりの集いについての情報共有が行われた。
- 5、「自己発見と大学生活」第3回担当者会議：8月21日（木）14：00～15：30（オンライン）
 - ・参加人数 24 名
 - ・今年度の授業のふりかえりを行った。授業内での各教員の工夫、学ファシの授業への関わり方、教員と学ファシの共同の仕方等について、具体的な事例や反省点が共有された。
- 6、第1回「批判的思考と論理的表現」情報交換会：3月3日（火）12：00～13：20（オンライン）
 - ・参加人数 10 名
 - ・来年度から授業を担当する新任教員、十年以上担当している教員を含めて情報交換が行われた。進行はセンター長が担当。授業の進め方や教科書の活用方法、使用している副教材、学生の AI 活用等について相談が寄せられ、各教員の方針や工夫について意見が交わされた。

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

- 1、テーマ：全学における初年次教育の現状や取り組みに対するアンケート
 - ・概要：全学的により質の高い初年次教育の提供を目指すため、各学部において現在どのような初年次教育が提供されているのか、現状と取り組みを把握するためのアンケートを行う。
 - ・実施日：2025 年 6 月中旬～下旬
 - ・参加学部：10 学部（経済学部、経営学部、法学部、現代社会学部、国際関係学部、外国語学部、文化学部、理学部、情報理工学部、生命科学部）
- 2、テーマ：第1回「2025 年度 学生ファシリテーター『自己発見と大学生活』事前研修」
 - ・概要：「自己大」に参画する学ファシとして必要な知識・能力・心がまえを身につける。「自

己大」に参画する学ファシ同士のチームビルディングを高める

・実施日：2026 年 2 月 10 日（火）10:00～16:00

・参加人数：104 名（学生ファシリテーター82 名、運営スタッフ 22 名）

3、テーマ：第2回「2025 年度 学生ファシリテーター『自己発見と大学生活』事前研修」

概要：「自己大」の場での学ファシとしての役割をワークで体験し、理解・実践できるようになる。お互いの個性を活かした協働の仕方を模索する。多様な受講生、学ファシ、教員とどう向き合うか、自分なりの方針を持つ。

実施日：2026 年 3 月 25 日（火）10:00～16:00

参加人数：101 名（学生ファシリテーター79 名、運営スタッフ 22 名）

4、テーマ：第3回「2025 年度 学生ファシリテーター『自己発見と大学生活』事前研修」

概要：「自己大」の場での学ファシとしての役割をワークで体験し、理解・実践できるようになる。お互いの個性を活かした協働の仕方を模索する。多様な受講生、学ファシ、教員とどう向き合うか、自分なりの方針を持つ。小グループへの介入、チーム内でファシリテーションしあうことを実践的に学ぶ。

実施日：2026 年 3 月 26 日（水）10:00～16:00

参加人数：99 名（学生ファシリテーター77 名、運営スタッフ 22 名）

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

本年度「京都産業大学と京都を知る」「京都産業大学を活用する」の履修上限を 330 名に引き上げたが、「自己発見と大学生活」等、初年次教育センター管轄の科目は、履修希望者が多く、いまだ抽選に漏れる学生が少なくない。

履修希望者が多く、アンケート結果も満足度の高い「日本語表現」「批判的思考と論理的表現」は、現在、統括教員が不在であり、教員間のコミュニケーション不足の改善や授業の均一性を担保する必要がある。

各学部で提供している初年次教育と初年次教育センターが提供している教育内容について、相互に有益な情報共有がなされていない現状がある。現在、各学部でどのような工夫がなされており、どのような強みや特色があるのか。授業の運営方法や運用状況、課題などを各学部および初年次教育センターが相互に把握し、有効に活用できる環境を作る必要がある。

3. 次年度に向けての取り組み

履修希望者の多い初年次教育センター管轄の授業について、質の維持を優先しつつ、履修希望者にとって適切な定員設定やクラス数を確保するための見直しを、来年度も継続して検討する。

統括教員が不在となっている「日本語表現」「批判的思考と論理的表現」について、担当教員の意見交換会を行って現状を把握し、授業の均一性を担保するための改善策を検討する。

全学的により質の高い初年次教育を提供するために、初年次教育センターが中心となって、各学部における初年次教育の現状や取り組みを把握するためのアンケートを行い、各学部と初年次教育センターが提供する教育内容の特色や相違点を共有し、互いの取り組みを相乗効果的に結びつける環境を作る。

※この内容は当該年度終了後、本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。